

富士見町新井戸尻考古館 設計ワークショップのまとめ

- ・開催日時 令和7年12月20日(土) 15:00～17:20
- ・会場 富士見町コミュニティ・プラザ 2階大会議室
- ・参加者 富士見町の町民29名(5班編成で意見交換)
- ・テーマ 「こんな新井戸尻考古館になったらいいな！」
 (1)「まず、どんなことやどんな活動をしたい？」
 (2)「そのために、どんな空間や場があったらいい？」
 (3)「原案の図上で考えてみよう」



D班

<重視している視点>

1. 五感で「縄文」を体験する場
2. 日常の延長にある「集いと憩い」の場
3. 空間と時間の枠を広げ新たな魅力を創出する場

【多世代の人が集まる場】

- ・来た人が井戸尻はすばらしい所とわかる
- ・井戸尻に多くの人が集まって二れるように
- ・老人も行きたくなる施設に
- ・おじいちゃん、おばあちゃんの昔話を聞く
- ・おかし話を聞く
- ・キッズスペース

幅広い世代の交流

【憩いと集いの空間】

- ・近くの人が気軽に集まれる場所
- ・みんな集まって座れる場所・ベンチ
- ・大きな土間空間・えんがわスペース
- ・まどろみの時
- ・カフェ
- ・えんがわスペース
- ・大きな土間空間
- ・電子レンジ

【敷居を低くし間口を広げる】

- ・縄文ピクニック
- ・キャンプ
- ・花火
- ・映画をみる
- ・DJパーティ
- ・音響設備、スクリーン

五感を使って学ぶ

【活動スペース】

- ・「おらあとう広場」はもつともつと広く
- ・木々広い軒下(雨の日の外の活動)

施設・交通

◎施設

- ・ミュージアムショップ
- ・上げれる屋根

◎交通

- ・貸し自転車
- ・駐車場と広場を逆に
- ・大きい駐車場
- ・案内板

【さわれる展示・多くの展示】

- ・さわれる土器・石器コーナー
- ・今ある土器・石器をできるだけ多く展示

【学びの場】

- ・こどもの学習の場に
- ・勉強する場、図書コーナー
- ・講座室：研究者の発表を聞いたり交流会など
- ・縄文の食：縄文人と同じものを食べてみたい

【ものづくり体験】

- ・道具作り
- ・土器作り

縄文の暮らしや衣食住の体験

【縄文の暮らし・衣食住体験】

- ・縄文時代にタイムスリップできる所
- ・縄文人一日体験
- ・お酒をのんだり焚き火を囲んで語りあう
- ・衣食住を自分達の手で作る体験
- ・たて穴住居を作る
- ・火おこし
- ・かまど(火をおこして暮らしてみる)
- ・炊事場
- ・ファイヤーピット
- ・お金を使わずに物を交換したりする

【野外体験】

- ・縄文の道具で農業体験
- ・畑
- ・発掘体験
- ・土器の発掘体験
- ・水場、野外トイレ

A班

<重視している視点>

1. 「本物」に触れ、縄文を深く理解する探求の場
2. 「縄文の暮らし」を身体で感じる体験の場
3. 「滞在と交流」を促す開かれたプラットフォーム

学びを広げ 深める

【学びの場】

- ・学びのスペース
- ・定期的な講習会・ミニ講習の開催
- ・現在の考古学における井戸尻遺跡の立ち位置の理解

【フィールド解説】

- ・解説ボランティアガイドの配置
- ・屋外を歩きながらの解説
- ・縄文人が利用した植物に関する学習

大屋根の下

【大屋根の下で多様な活動】

- ◎快適な館内環境
- ・寒くない吹き抜け、快適な内部空間
- ・座れるイスやテーブル、机の設置
- ・内外の案内マップ
- ・ガラス張りによる視認性

- ◎交流・活動拠点
- ・来館者と地元住民の交流・集いの場
- ・地域の有志や協力グループの活動拠点
- ・映画上映
- ・町民による土壁造り

バックヤードや周辺環境も含む

【多様な展示体験】

- ◎本物の展示体験
 - ・風景も展示の一部
 - ・本物の土器に触れる
 - ・国宝指定時の別室展示
- ◎バックヤードの公開
 - ・バックヤード作業
 - ・修復作業
- ◎リピート
 - ・何度も来て見たい

身体で感じる縄文体験

集い・交流・仲間づくり

【内外の交流と仲間づくり】

- ◎語り合い・コミュニティ
- ・語り合いと仲間づくりの場
- ・資料を通じた多人数での対話
- ・井戸尻文化発信のためのグループ形成

火と食を通じた

【五感で感じる縄文体験】

- ◎縄文の食の再現・調理
 - ・石器・土器・火を使った縄文料理の調理と実食
 - ・料理ができる場所、火が使える場所の確保
- ◎ゆっくり過ごす縄文カフェ
 - ・ハス池周辺への縄文カフェ設置
 - ・歴史の本を読みながらコーヒーを飲む、長く滞在できる場所

手や体を動かし

【身体で感じる縄文体験】

- ◎ものづくり・出土体験
 - ・石器、道具づくり
 - ・土器にふれる、洗う
 - ・出土体験
- ◎縄文の暮らし・生活体験
 - ・縄文人になる体験(弓矢、火おこし、石磨き)
 - ・堅穴住居での生活・宿泊体験
- ◎縄文の農業体験
 - ・石器を使った農業体験
 - ・草本と林の実験畑の設置

◎半屋外空間の活用

- ・大屋根の下の広くて視認性の良い空間
- ・雨の日も軒先で活動できる場所
- ・水場の設置

フィールドの縄文体験

【歩いて縄文を感じるフィールドの体験】

- ◎散策ルートと景観整備
 - ・歩きながら縄文を感じるルートと景観の構築
 - ・夜間も歩ける適切なライトアップ
 - ・縄文の景観に調和するトイレの設置
- ◎休憩・水辺のスポット
 - ・歩行を促す木陰、日陰、東屋
 - ・小さな古代ハスの池

C班

<重視している視点>

1. 縄文の暮らしやものづくりを体感する場
2. 自然を感じながらゆったりと過ごす場
3. 交流を生み出しコミュニティを育む場

ゆったり のんびり過ごす

【館の中や外でゆったりと過ごす】

- ◎飲食や休憩、景観を楽しみゆったり過ごす
- ・カフェ、カフェコーナー
- ・ゆったりと過ごすラウンジ
- ・中→ソファ、イス、テーブル
- ・外→屋根、ソファ、ベンチ
- ・ただただ草の上でのんびりする
- ・ひるね

PR→交流→

コミュニティづくり

【魅力を外部へ発信】

- ◎PR・イメージキャラクターの発信
 - ・考古館の特徴を広く発信、観光に役立つ場
 - ・考古館を県外など広くPR
 - ・テーマの発信 <例>青森 ジョモジョモ
 - ・イメージキャラクターの発信
- ◎交流のきっかけづくり
 - ・会話のきっかけをつくる環境、ラウンジ
 - ・囲炉裏・丸テーブル・車座の場
 - ・暖かい照明、森・せせらぎの音を流す
 - ・堅穴式住居風模様
- ◎コミュニティづくり
 - ・フチャーズの部屋、ゆるい対話の部屋

学び【学習の場】

- ◎研究の発信
 - ・どのような研究をしているのかわかる
- ◎展示の工夫
 - ・子供も理解できる縄文人の生活コーナー
 - ・ジオラマなど館内常設体験コーナー
 - ・バックヤードも見れる

縄文の暮らしや

ものづくりを体験する暮らし

【手を動かして縄文時代の生活を体験する】

- ◎ものづくり・暮らし体験
 - ・学校教育ではできない活動、縄文人の生活、基本的な作業
 - ・縄文土器の作成プロセスを体験したい
 - ・石器や土器を作る、使う
 - ・生活で使ったであろう、ワフ、スキ、ワマなどの作業道具作り
 - ・石など割れる場、石斧作り、木で柄を作る
 - ・復元ワークショップ
 - ・中(テーブル水道)外(火が使える)
 - ・土器・素焼きの場
- ◎農耕体験
 - ・農業体験、田植え、収穫など
 - ・体験：縄文時代の食物を育てる

体験する

フィールド

アクティビティを 体験する

【動的な体験】

- ・ステージと客席的な階段
- ・儀式とか舞とかステージ
- ・イベント的なもの
- ・酒盛り、魚つり
- ・キャンプ、住居、宿泊
- ・移動：電動キックボードのParking、レンタサイクル

静かに自然を 体験する

【静的な体験】

- ・縄文の風景を見る、感じる
- ・甲斐駒ヶ岳、富士山を望む
- ・何も無い空間、人工物のない場
- ・風の音、空気、鳥の声をを感じる
- ・土くささ、そばくさ
- ・起伏のある場、散策コース
- ・子どもが自由に遊ぶ

たてもの

考古館全体が 特別な体験の場

【特別な体験を支える建築環境】

- ・どこにでもあるような博物館施設ではないもの
- ・通路に工夫を、ただの通路にしない
- ・屋根に上げれる、屋根に土と草と木
- ・照明に工夫を
- ・無影灯にしてほしい
- ・会議室を多目的に開放
- ・床の耐久性強化
- ・多言語案内、英語表記

B班

<重視している視点>

1. 縄文人の世界観と「おらあとうの精神」に触れる場
2. 自然環境との「調和・共生」を具現化する場
3. 「交流と体験」が生み出す学びの拠点

井戸尻にしかない魅力・歴史を大切にする

【先人の記録、魅力の発信】

- ・井戸尻にしかない魅力を発信したい (おらあとうの考古学、画像論、農耕論 etc)
- ・関わってきた人の記録を残す (ネット配信)

縄文時代の衣食住を体験する

【体験プログラム】

- ・縄文時代の衣食住を学び、体験、作る
- ・モノづくり、土器づくり
- ・井戸尻にある素材を使った体験学習 (ハス、ワラムシ、土器、復元家屋、文様)
- ・勉強会：縄文勉強会、縄文流モノづくり勉強会

【体験のための空間】

- ・堅穴式住居、土間の空間で体験工房スペース
- ・一般の方が気軽に立ち寄れるスペース (調理場、土器作り)
- ・映像を流す場所

人が集い、交流し、学び合う

【多様な交流イベント】

- ・ロビー、広場で縄文夜話的なナイトトーク
- ・収穫祭とは別の？縄文の祭り

【学習・コミュニティの拠点】

- ・集まり学ぶ場所
- ・地域の人たちが集まれる場所 (小学生等も含め)
- ・勉強会

縄文の世界観と

「おらあとうの精神」に触れる

【縄文人の世界観に触れる】

- ・縄文人の見ていた月、世界観が感じられる空間
- ・時間軸や生死
- ・生と死を感じたい

【おらあとうの精神に触れる】

- ・先人の歩んだ道を体験できる場所
- ・わが事として関わる意識
- ・100年後のことを語りたい
- ・建物を建てる時に参加できる
- ・(1/2年ごととか) 定期的に建物、施設を維持する活動に参加したい
- ・環境整備の手伝い
- ・みんなの力でやれる事ができたら良い

ワクワクする考古館への導き

【駅周辺のまちづくり、来館までの道のり】

- ・駅周辺のまちづくり (考古館への導線)
- ・駅から向かうときのワクワク感
- ・縄文につづく道、体感できる道

自然環境を体感する

【天体・五感による体感】

- ・光や火、水、植物など、自然環境の体感
- ・冬至の朝日を見る、感じる
- ・自然の一部を切り取る。冬至の朝日が入る窓
- ・火

【屋外環境の整備】

- ・屋外にも水場欲しい
- ・木陰が欲しい

自然や周辺環境と調和する

【周辺の自然環境との調和】

- ・土地を痛めない建物、自然とシンクする
- ・景観と調和する (なじむ) 建築、外観
- ・自然素材で外から建物がしつかりわかる
- ・老いていく空間 (床、柱など更新できる)
- ・テラスは土、土わべ、わやぶキ

【配置】

- ・配置をもう少し「建物」の中央に。「全方位性」

【古いものを展示する方法】

- ・新しい建物に古いものを展示する最適なやり方

E班

<重視している視点>

1. 体験を通して縄文を深く学ぶ場
2. 悠久の縄文と向き合う場
3. 四季折々の自然に学び、活動する場

【飲食と憩い】

- ・ゆったり食事
- ・ゆったりお茶・食事
- ・ながめのよい空間、オシャレなティータイム

憩いの場

【弓矢体験】

- ・弓矢を作って使ってみる
- ・外で作成できるスペース
- ・黒よう石を使った体験

【食・暮らしの体験】

- ・縄文の人たちの暮らしを知
- ・縄文の時代の食べ物を食べてみる
- ・作った野菜で何かを作る
- ・火を使う場所

【土器の学びを深める】

- ・この地域の資料を集める
- ・縄文土器にふれる・観察
- ・土器の文様から読みとくストーリーを知る
- ・スクリーンなど映像機器

弓矢・食・暮らし体験

土器を学び、作り、使う体験

【粘土を探し、採取する】

- ・粘土がとれる場所の調査、現地での採取
- ・粘土探し
- ・遠足：土を触ったり自然に触れ合う

【土器づくりとそのための環境】

- ・土器づくり
- ・土器を使ってみる
- ・水場 (手洗い場)
- ・水道つきの汚れても良い部屋、大きめの机
- ・破損に気をつけられる場所の設定

【動植物の観察と記録】

- ・四季折々のホタルなど虫の観察
- ・観察するために虫かご、あみ、ワメラなど
- ・虫、土、石、ワラ子など
- ・四季を感じる事ができる 木 (ワリ・柿・とち・木、いちようなど)
- ・トレイルワメラ、パソコンなどが必要。デジタル
- ・敷地内にいる生き物のトレイルワメラで記録、その映像を公開する
- ・水辺、川、池

縄文人の二二ろに触れる

【歴史の重みを感じる空間】

- ・ピラミッド5000年、井戸尻文化5000年→長い時間に耐えうる強度・密度があるもの→それを支えられる空間
- ・心を気持ちよく動かす空間、建築はそれを感じる人を呼び→周辺地域へ広がる流れをつなげる

【心落ち着ける空間】

- ・縄文人の祈りともとれる、土器、石器にひたる事のできる心を落ち着ける空間がほしい
- ・自分の心と向き合う
- ・心が内省的な意識に向かっていけるような外部空間、アプローチ、展示室への動線があると良い

【自然体験と学び】

- ・自然観察を行ない子どもから大人まで季節を問わず体験してもらおう
- ・解説者を捜し、育てる
- ・調べたい事の班を作りたい (考古学、植物、昆虫、動物)
- ・外で活動する

【屋外の開放感】

- ・広い芝生広場

「富士見町新井戸尻考古館 設計ワークショップ」
全体のまとめ

「こんな新井戸尻考古館になったらいいな！」

- ・どんなことや活動をしたい？
- ・そのためにどんな空間や場があったらよい？
- ・原案の図上で考えてみよう

自然に親しむ：四季の自然と向き合う場

景観を愉しみ、内省し、自然環境と調和する

◎**自然環境・景観を愉しみ、観察する**

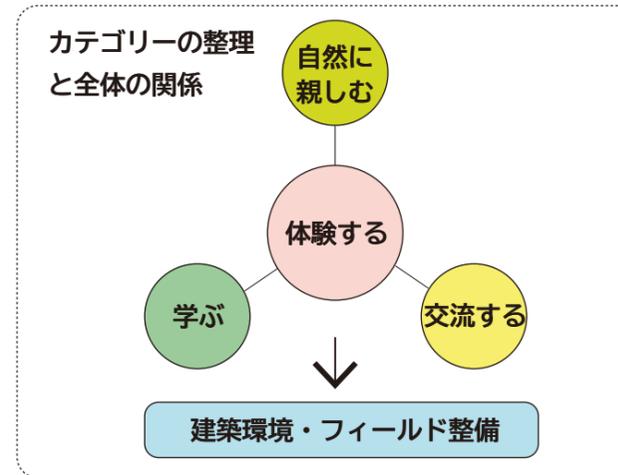
- ・眺望・音：甲斐駒ヶ岳、富士山を望む。風の音、空気、鳥の声を感ずる(C班)
- ・天体：冬至の朝日を見る窓、縄文人の見ていた月(B班)
- ・動植物の観察：ホタルなど虫の観察、トレイルカメラでの記録。縄文人が利用した植物の学習(A、E班)

◎**内省・癒やし**

- ・静かな時間：ただただ草の上でのんびりする、ひるね、まどろむ(C、D班)
- ・内省：自分の心と向き合う、心が内省的な意識に向かっていけるような外部空間(E班)

◎**周辺の自然環境と調和する**

- ・自然とシンワ、土地を痛めない建物



学ぶ：縄文の学びを深め、探求する場

展示の工夫、研究・バックヤードの公開、深い学び

◎**「本物」の展示体験**

- ・本物の展示体験：風景も展示の一部、何度も来て見たい(A班)
- ・子供も分かる展示：子供も理解できる縄文人の生活コーナー。ジオラマなど館内常設体験コーナー(C班)
- ・物量の多い展示：土器・石器をできるだけ多く展示(A、D班)
- ・本物の土器に触れる：さわられる土器・石器コーナー土器にふれる・観察(A、E班)
- ・土器の学び：土器の文様から読みとく(E班)

◎**研究・バックヤードの公開**

- ・バックヤードの公開：バックヤード作業、修復作業の公開(A班)
- ・研究の姿を知る：どのような研究をしているのか知る。バックヤードも見れる(C班)
- ・資料収集：この地域の資料を集める(E班)

◎**学びを深める**

- ・専門的な学び：現在の考古学における井戸尻遺跡の立ち位置の理解(A班)
- ・講座・勉強会：定期的な講習会、研究者の発表を聞く講座室、縄文勉強会(A、B、D班)
- ・図書機能：勉強する場、図書コーナー(D班)

体験する：縄文人の「暮らし」や「ものづくり」を体験し「こころ」にふれる場

実際に手を動かし、五感を使って縄文時代の生活(衣食住・農耕)を体験し、縄文人のこころにふれる

◎**敷居を低くし、間口を広げる**

- ・一日体験：縄文人一日体験、キャンプ、住居での宿泊(C、D班)
- ・イベント：映画、音楽、音響設備(B、D班)

◎**縄文人の「食」と「火」、「世界観」の体験**

- ・縄文料理の実食：石器・土器・火を使った調理と実食。(A、D、E班)
- ・縄文人になる：火おこし、石磨き(A、D班)
- ・火の使用：火が使える場所、ファイヤーピット、かまど(A、B、C、D、E班)
- ・縄文人のこころ、死生観にふれる(B、E班)

◎**ものづくり・道具づくり**

- ・土器・石器づくり：縄文土器の作成プロセス体験、土器の素焼き、石器を作る、使う→水場(A、B、C、D、E班)
- ・道具・作業道具づくり：生活で使ったであろうスキ、カマ、弓矢などの道具づくり(A、C、D、E班)
- ・素材からの採取：粘土がとれる場所の調査、現地での採取(E班)

◎**農耕・野外体験**

- ・農業体験：縄文時代の食物を育てる。井戸尻にある素材(ハス、カラムシ等)を使った体験(B、E班)
- ・石器を使った農業体験、収穫(A、C、D班)
- ・発掘体験：土器の発掘体験(A、D班)

交流する：交流を生み出しコミュニティを育む場

来館者、地域住民、多世代の交流、井戸尻の精神の共有

◎**憩い・集い・交流・仲間づくり**

- ・ラウンジ・カフェ：気軽に立ち寄れるスペース、カフェコーナー、ゆったりと過ごすラウンジ、縄文カフェの設置(A、B、C、D、E班)
- ・集いの場：囲炉裏・丸テーブル・車座の場、大きな土間空間、えんがわスペース(B、C、D班)
- ・多世代の人が集まる場所：気軽に集まれる場所、子供が自由に遊ぶ、おじいちゃん・おばあちゃんの昔話を聞く、キッズスペース、ロビー、広場(C、D班)

◎**「おらあとうの精神」に触れる・発信する**

- ・コミュニティ形成：井戸尻文化発信のためのグループ形成。わが事として関わる意識(A、B班)
- ・参加・共創：建物建設への参加、定期的な施設維持活動や環境整備への参加(B班)
- ・井戸尻にしかない魅力の発信：先人の記録、魅力の発信(B班)、PR・イメージキャラクター(つつちーず)の発信(C班)

環境整備：建築環境とフィールドの整備

施設全体の構造、アクセシビリティ、屋外環境の設え

◎**建築環境の整備**

- ・自然との調和：土地を痛めない建物、自然素材(土壁、茅葺など)の使用(B班)
- ・大屋根と半屋外：大屋根の下で多様な活動、寒くない吹抜け・快適な内部空間、雨の日も活動できる広い軒下(A、D班)
- ・特徴のある屋根：屋根に上げれる、屋根に土と草と木(C、D班)
- ・特別な体験を支える空間：無影灯の照明、通路の工夫、人工物のない静かな場(C班)
- ・土間空間：体験工房スペース、気軽に立ち寄れるスペース(B班)

◎**水場、火が使える場**

- ・水場の設置(A、B、C、D、E班)
- ・火が使える場所の確保(A、B、C、D、E班)
- ・かまど：縄文の暮らし体験(D班)

◎**フィールドの整備**

- ・散策と動線：起伏のある散策コース、駅からのワクワクする導線(A、B、C班)
- ・インフラ整備：ライトアップ、多言語案内(A、B、C、D班)
- ・交通アクセス：貸し自転車、電動キックボードのParking、大きな駐車場(C、D班)